

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 5 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520616

研究課題名（和文） 近代中国における民俗・象徴・儀礼と秩序の構成

研究課題名（英文） Folk Customs, Symbols, Rituals and the Formation of Social Order in Modern China

研究代表者

丸田 孝志 (MARUTA TAKASHI)

広島大学・大学院総合科学研究科・准教授

研究者番号：70299288

研究成果の概要（和文）：

日中戦争期から内戦期の中国共産党（中共）根拠地における民俗・象徴・儀礼を利用した戦時動員・宣伝政策について分析し、これらの政策が、階層間の流動性が大きく、状況依存的なネットワークが展開する中国基層社会の構成の特質を意識して展開され、強力な動員力を発揮した状況を明らかにした。また、日本傀儡政権の同様の政策と対比して、両者の特質を検討した。この他、清末から民国初期の憲政導入過程の分析を通じて、伝統的統治から近代的統治への転換の問題を長期的な視点から検討した。

研究成果の概要（英文）：

This study analyzed about war mobilization and advertisement policy which used the folk customs, symbols, and rituals in the Chinese Communist Party(CCP) base area during the Sino-Japanese War to the Civil War period, and elucidated these policies were executed in being conscious of the special feature of the composition of the China basis society which showed the hight mobility between classes, and expanded the flexibile networks, thus exercised the powerful mobilization power. By the comparison of Japanese puppet government policy, this study also examined the feature of those powers. In addition, by the analysis of the introduction process of the constitutional government from Late Qing to Early Republic period, from the long-term viewpoint, examined the problems of conversion to the modern government from traditional government.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：民俗 象徴 儀礼 秩序 国民統合 中国共産党 日本傀儡政権 憲政

1. 研究開始当初の背景

申請者は、かつて千年王国論的な終末思

想・均分思想を民衆一般の心性として理解するモラルエコノミーなどの議論を批判し、中

共が組織しようとした民俗が、千年王国的世界観を反映したものではなく、専制国家のイデオロギー統治を通じて広く大衆に共有されるようになった礼教の側の民俗であったことを中共根拠地の象徴・儀礼研究において示した。また、申請者はそれまでの研究において、農村の個別家庭の原理を基礎とする農暦の民俗や信仰に集団性を付与しようとする中共の施策が、かえって民俗固有の個別性にとらえられつつ展開していく過程を明らかにした。このような議論は、中国基層社会の組織性の弱さを指摘する諸研究とも符号するが、その一方で中国には、非組織的で状況依存的な個人関係のネットワークが存在しており、このような社会関係と民俗、政治権力の関わりを解明する課題が残されていた。砂鉄に作用する磁場なども形容されるこれらの社会関係は、時に強い凝集力を発揮し、また政治権力と複雑に結びつくことで、中国政治に大きな変動をもたらしている。個別性の裏面にあるこのような社会のあり方の解明が、中国の政治・社会の動向の分析に重要な意義をもつと考えられる。そして、この問題は、社会と政治権力がどのような関係を結んで秩序を形成するかという問題に関わる。そのため、申請者の関心は、総力戦を契機とする強制的均質化の過程として近代中国の政治統合を展望する議論と距離を置きつつ、民俗・文化・社会の固有のあり方に着目し、西洋や日本と異なる近代中国の統合と秩序構築の過程を、より意識的に示すことにおかれた。

2. 研究の目的

本研究は、近代中国の政治権力による民俗・信仰の利用・改造、近代的政治象徴・儀礼の導入過程の検討を通じて、文化・民俗の再編が、政治動員、階級意識・国民意識の創出、社会秩序の構築において果たした機能に

ついて考察することを目的とする。その際、私的ネットワークの拡大と社会を代替する国家権力の浸透という中国独自の権力と社会の関係に着目し、中華人民共和国成立に至るまでの時期の統合の問題を検討する。

土地改革、大衆動員、党組織の拡大、徴兵・軍事動員などの中共の諸政策の実施過程とそこにおいて展開する時間・節句・廟会・会門の盟約などの民俗利用、神像を代替する指導者像などの象徴の使用、追悼儀礼などの儀礼の組織を重点的に検討し、これらの政策が中国社会の秩序構成の問題にどのように関わったかを検討する。

この他、国家統合の問題を長期的な視点から確認するために、清末から民国初期までの中央と地方の編成に関わる憲政の問題を検討課題に加える。

3. 研究の方法

多様な中国社会を統合する政治の原理を考察するため、地域権力と農村社会の関係を主要な検討対象とし、中共根拠地と日本傀儡政権などとの比較を行う。

日本の法社会学者の農村調査などの先行研究から、階層間の流動性が大きく、基層社会の地縁的紐帯が弱い一方で、状況依存的な人間関係が展開する中国社会の特質を 1930年代から 40年代の歴史的状況に位置づけて理解する。特に中国社会の秩序構成に特徴的な会門(秘密結社)的結合、民間信仰の心性、家族・宗族の行動原理、農村社会構造と階層秩序の関係などについて、日中戦争期・内戦期の社会変動と中共の政策との関わりで把握する。

華北地域の歳時、民俗、社会団体・結社、宗教、信仰などに関する史料、中国共産党根拠地および日本軍・日本傀儡政権の諸機関の発行した新聞・雑誌・政府公報・曆書、民俗・象徴・儀礼・戦時動員・宣伝政策に関する文

書・パンフレット・画像史料などを収集する。これらは、刊行されたものを利用した他、日本の国立国会図書館、東洋文庫、東洋文化研究所、中国の国家図書館、中国社会科学院近代史研究所、山西省档案馆、台湾の法務部調査局図書館などで調査を行った。当時刊行されていた新聞・雑誌を発掘し、所在を確認した上で、書店を通じてマイクロ化・CD化して利用した。特に基層幹部レベルで使用された新聞・雑誌などの史料の発掘に努めた。

民俗学・社会学的研究が伝える農村社会の民俗・民間信仰・伝統的儀礼の状況と中共・日本傀儡政権の史料の伝えるこれらの状況の差異や変化に注意し、またこれらの政権の民俗利用の手法と民俗・儀礼に注意しつつ、動員・宣伝政策の実態を検討する。

4. 研究成果

中共根拠地については、冀魯豫区を中心に、内戦遂行における大衆動員の過程を、従来分析視角として用いられてきた階級区分論でなく、人々の政治的態度や選択、それに伴う地位・資格などを包括する「政治等級区分」という概念を導入して、中共の大衆運動の特質を分析した。このことにより、本来的に弱い農村の保護機能を破壊しつつ、これに権力を接合させる形で浸透した中共政権の動員力の要因を説明した。このような中共の大衆運動は、階層間の流動性を特質とする華北農村の社会状況に適応しており、秩序の混乱に乗じて状況依存的に広がり、安全保障を提供する会門的結合を踏襲したものであった。等級区分は、身体などに標識として付されて視覚化されることもあり、政治的態度により変更が可能であったため、秩序の混乱の中で安全保障を求める人々を有効に組織し、強い動員力を発揮することとなった。

内戦期の徴兵問題についても、このような社会の特質に依拠した政治等級区分による

動員手法に着目しつつ、冀魯豫区を中心に検討した。土地改革は事実上、参軍と土地・財貨の交換として進展しており、国民政府地区において確認されたような拉致、詐欺、不公正、買兵、逃亡などの問題も広範に確認されたが、短期間に積極分子や党員を抜擢し、可変的な等級区分の授与・剥奪などにより忠誠を迫る手法などを通じて、何度もノルマの大幅な超過が起きた。また、雑多な動機によって集められた兵士らも、軍隊内の民俗利用による追悼会の組織を通じて階級意識を涵養されつつあった。

中共根拠地における毛沢東像の使用については、実際に使用された写真や版画像を発掘し、大衆動員においてこれらがどのように使用されたかを検討した。毛像は農村においては、個別家庭を司祭する神像の代替として使用される一方で、会門的結合によって党組織を立ち上げる際の「天」に替わる盟誓の対象となり、また、闘争の急進化に伴い大衆の権力の象徴としての性格を強めていった。また、農村における階級闘争と都市を包括した連合政府という中共権力の二重性に即した、二種類の標準像の使用の特徴について明らかにした。

日本傀儡政権については、中共・国民政府・汪精衛政権の新暦・農曆、象徴の使用に関する政策と比較しつつ、記念日活動、民俗利用、暦と時間に関する政策を検討した。中共が国共関係の悪化後、国民政府の権威から離れて独自の記念日を強調していくのに対して、日本傀儡政権は、次第に国民政府の記念日体系を尊重するようになり、同政府の権威に基づいて正統性を主張するようになっていったこと、民俗利用を通じて政権の正統性を訴える一方で、中共に比べて個別家庭の民俗を十分に利用することができなかったことなどを明らかにした。この他、中共政権、

傀儡政権、汪精銳政権がともに政治的意義の理解を前提としない職能・帰属集団別記念日を新暦の社会への浸透に利用していた状況を確認した。

研究分担者は、清末から北京政府期に至る立憲改革の過程を、日本の憲政議論との関係において検討し、行政府の権限の確立、中央—地方関係の調整など、近代化において中国が面した国家統合に関わる固有の問題を明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

1. 丸田孝志「中国共産党根拠地の権力と毛沢東像—冀魯豫区を中心に—」、奥村哲編『変革期の基層社会—総力戦と中国・日本—』(仮題)創土社、査読なし、2012 年刊行決定。
2. 丸田孝志「内戦時期冀魯豫区の群衆動員と政治等級」、田中仁・江沛・許育銘編『現代中国與東亜新格局』第 1 輯、社会科学文献出版社、査読なし、2012 年刊行決定。
3. 丸田孝志「国共内戦期、中国共産党冀魯豫根拠地の参軍運動」『広島東洋史学報』第 15・16 合併号、査読なし、2011 年、pp23-42。
4. 丸田孝志「陝甘寧辺区的記念日活動与新暦農暦的時間」『抗戦文史研究』第 2 輯、査読なし、2011 年、pp47-62。
5. 丸田孝志「日本傀儡政権と中国共産党根拠地の記念日と時間」、田中仁・三好恵真子編『共進化する現代中国研究—地域研究の新たなプラットフォーム—』大阪大学出版会、査読なし、2011 年、pp232-254。
6. 丸田孝志「日偽政権と中国共産党根拠地的時間と象徴」、陳廷湘主編『「近代中国与日本」学術研究会論文集』、巴蜀書社、査読なし、2010 年、pp166-199。
7. 曾田三郎「熊希齡内閣的《政府大政方針宣言》与日本人的中国立憲国家論」、陳廷湘主編『「近代中国与日本」学術研究会論文集』、巴蜀書社、査読なし、2010 年、pp20-42。
8. 丸田孝志「国共内戦期冀魯豫区の大衆動員における政治等級区分と民俗」『アジア社会文化研究』、査読有、2010 年、pp133-161、<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00029735>。
9. 丸田孝志「太行・太岳根拠地的追悼儀式と民俗利用」『中日学者抗戦文史研究論文集』、査読なし、2009 年、pp. 328-344。
10. 丸田孝志「国旗、領袖像：中共根拠地的象徴(1937-1949)」『中国社会歴史評論』10 号、査読なし、2009 年、pp 323-341。

[学会発表] (計 9 件)

1. 丸田孝志「国共内戦期、中国共産党冀魯豫根拠地的軍事動員」、第五回「現代中国と東アジアの新環境」国際シンポジウム、2011年8月21日、中華人民共和国フフホト市。
2. 曾田三郎「中華民国臨時約法の制定と日本人法学者」、史学研究大会、2011 年 10 月 30 日、東広島市。
3. 丸田孝志「中共冀魯豫区根拠地的象徴と民俗利用」、第四回「現代中国と東アジアの新環境」国際シンポジウム、2010 年 8 月 27 日、中華人民共和国贛州市。
4. 丸田孝志「国共内戦期の中国共産党根拠地的象徴と権力」、シンポジウム「20 世紀中国における立憲主義と自由」(民国史論の会・広島中国近代史研究会共催)、2010 年 10 月 3 日、広島市。
5. 丸田孝志「冀魯豫区の政治動員と民俗・象徴」、シンポジウム「戦争と社会変容」(中国基層社会史研究会)、2010 年 7 月 24 日、東京都。

6. 丸田孝志「冀魯豫区の政治動員と民俗・象徴」第三回「現代“中国”の社会変容と東アジアの新環境」国際シンポジウム、2009年8月25日、茨木市。
7. 丸田孝志「冀魯豫区の軍事動員と民俗利用」、史学研究大会、2008年10月25日、東広島市。
8. 丸田孝志「日偽傀儡政権与中共根据地的時間与象徴」、四川大学・広島大学「近代中国与日本」シンポジウム、2008年9月28日、中華人民共和国成都市。
9. 曾田三郎「熊希齡内閣的《政府大政方針宣言》与日本人的中国立憲国家論」、四川大学・広島大学「近代中国与日本」学術研討会、2008年9月28日、中華人民共和国成都市。

〔図書〕（計1件）

1. 曾田三郎『立憲国家中国への始動—明治憲政と近代中国—』思文閣出版、2009年、382頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丸田 孝志 (MARUTA TAKASHI)
広島大学・大学院総合科学研究科・准教授
研究者番号：70299288

(2) 研究分担者

曾田 三郎 (SODA SABUROU)
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：40106779

(3) 連携研究者

()

研究者番号：